学校番号	３２３

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	日本史Ｂ　（実教出版）						
副教材等	最新日本史図表　三訂版　（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

わが国の歴史の展開をさまざまな資料に基づいて地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に学習をすることによって、わが国の伝統や文化の特色についての理解を深め、今後の人生の中でさまざまな問題に直面した時に対応できるような歴史的思考力を持てるようにし、その一方で他国の歴史や文化も理解した上で、お互いを尊重する姿勢を持ち、これからの世界の中で日本がどのように貢献して行けるのかを考えられるように共に学習していく。

2　学習の到達目標

・２年では、原始古代から中世（鎌倉時代）までを学習します。
　日本史についての基本的な知識の習得と資料等の活用を通じて歴史を読み取る技能を身につけることができた。
・時代の転換点において、歴史的な見方や考え方に基づいて理解を深め、自分自身の考えを人に伝えることができるようになる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本の歴史の中でのさまざまな課題を意欲的に追求する姿勢を持ち、今後の人生の中で生かそうとする姿勢を持つ。	歴史の転換点において、世界史的な見方や科学的な見方を持って自分の考えを持って、それを表現できるようにする。	日本史に関する史料や地図などから情報を正しく読み取り、それを活用する力を持つ。	日本史の展開について、時代ごとに、あるいは主題ごとに理解するための知識を獲得する。
評価方法	・授業中の様子 ・提出したノート 授業に積極的に取り組んでいる 積極的に知識を獲得しようとしている	・授業の中での質疑応答 ・考査での論述問題	・考査での史料問題	・考査での知識を問う問題
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期中間	日本文化のあけぼの・出納農業の開始と社会生活	「日本最古の文化」 「縄文時代の社会と文化」 「弥生時代の社会と文化」 「小国の分立と邪馬台国」 ・人類文化の発生を考え、考古学の成果をもとに、旧石器文化・縄文文化の時代を理解する。 ・大陸からの稲作の伝来が日本社会のもたらした影響を考古学の成果、文献史料を通じて理解する。	○	○	○	○	a:日本文化の始まりに興味を持つことができる。 b:日本文化の成立に関して、自然環境の変化や大陸との影響にも着目して理解でる。 c:考古資料、文献史料から当時の社会が理解できる。 d:日本文化の始まりについて理解を深めることができる。	考査の点数 出欠状況 提出物の点検 受講態度
1学期期末		「ヤマト政権の成立・発展と東アジア」 「古墳の成立と発展」 「大陸文化の摂取」 ・ヤマト政権の形成過程を東アジア世界との関係を踏まえて理解する。 ・古墳時代の変容とヤマト政権の政治制度を理解する。	○	○	○	○	a:統一政権の形成過程に興味を持つことができる。 b:中国及び朝鮮半島の情勢との関連、大陸文化の受容とヤマト政権の成立を関連付けて理解できる。 c:考古資料、文献史料から当時の社会が理解できる。 d:統一政権形成について、理解を深めることができる。	考査の点数 出欠状況 提出物の点検 受講態度
2学期中間	東アジア文化の影響と律令制度の成立	「推古朝の政治と飛鳥文化」 「律令国家成立期の政治と文化」 律令体制とその実態」 「天平文化」 ・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を理解する。 ・律令国家成立過程を理解する。 ・平城京における政治の動きを、土地制度も含めて理解する。	○	○	○	○	a:律令国家の形成過程に興味を持つことができる。 b:飛鳥時代・平城京の時代の政治制度・土地制度の整備について、大陸の状況や地方社会とのかかわりなども踏まえて理解できる。 c:文献史料から当時の政治・社会の動きが理解できる。 d:律令国家の形成について、理解を深めることができる。	考査の点数 出欠状況 提出物の点検 受講態度

2学期期末	摂関政治と国風文化	「平安初期の政治と文化」 「摂関政治と地方の動向」 「国風文化」 ・平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革を踏まえて、律令体制の変質を理解する。 ・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について理解する。	○	○	○	○	a:摂関政治の成立過程に興味を持ことができる。 b:藤原北家の台頭から権力の掌握までの過程を理解し、律令体制の変容の観点から摂関政治を考察することができる。 c:文献史料から当時の政治制度や社会状況が理解できたか。 d:摂関政治の成立過程について理解を深めることができる。	考査の点数 出欠状況 提出物の点検 受講態度
3学期・学年末	中世社会の成立と文化の新機運	「荘園公領制の形成と武士団」 「院政と平氏政権」 「鎌倉幕府の成立」 「武家政治の展開」 「鎌倉武士と農村生活」 「蒙古襲来と幕府の衰退」 「鎌倉文化」 ・政治の動向、国際関係などから平氏政権の特性について理解する。 ・鎌倉幕府の成立過程から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ・蒙古襲来による政治・経済への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。	○	○	○	○	a:武家政権の成立・変容に興味を持つことができる。 b:源平争乱から幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、その後の武家政権の変容について理解できる。 c:文献史料・絵画資料から当時の政治制度や社会状況が理解できる。 d:武家政権の成立・変容過程について理解を深めることができる。	考査の点数 出欠状況 提出物の点検 受講態度

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。